

基礎看護学実習（3単位 135時間）

実習目的

1. 看護の対象を理解し、患者に行われている援助を通して看護の機能と役割を学ぶ。
2. 健康障害を持つ対象を理解し、必要な日常生活援助が実践できる能力を養う。

実習構成

実習	単位数	対象学年	実習施設
基礎看護学実習Ⅰ	1単位 45時間	1年次	静岡済生会総合病院
基礎看護学実習Ⅱ	2単位 90時間	1年次	静岡済生会総合病院

基礎看護学実習Ⅰ（1単位 45時間）

1. 実習目標

1) 実習目標

- (1) 病院で生活する看護の対象を知る。
- (2) 看護活動に参加し、日常生活援助を通して看護の機能と役割を考える。
- (3) 実習を通して看護学生としての望ましい姿勢・態度を養う。

2) 行動目標

- (1) 患者を取り巻く環境がわかる。
- (2) 患者が入院している理由がわかる。
- (3) 患者は入院生活にどのような不自由さを感じているのかがわかる。
- (4) 患者に行われている援助とその根拠がわかる。
- (5) 看護師の指導のもとに援助を体験できる。
- (6) 患者に行われている日常生活援助の中から、看護援助の基本的機能を考慮した援助計画が作成できる。
- (7) 援助計画表に基づいて援助が実施できる。
- (8) 行った援助の振り返りができる。
- (9) 実習を通して、看護の機能と役割が考えられる。
- (10) 看護において基本となる、患者との関係構築が重要であることに気づく。
- (11) 看護学生として実習マナーを守る。
- (12) 看護に興味を持ち、自主的に学ぶ姿勢を身につける。

2. 実習方法

見学及び体験実習を行う。

3. 留意点

- 1) 実習初日に病院の概要説明を受ける。その後、病院見学を行う。
- 2) 実習初日に病棟の概要、患者の特徴、看護目標等の説明を受ける。その後、受け持ち患者を決定し紹介を受け、挨拶に行く。
- 3) 「実習計画表」は事前に1日の実習目標・計画を立案する。(担当教員に相談・報告する。) 当日、計画に沿った実習を行い、評価の欄に目標達成状況を記載する。(病棟で助言を受ける。)
- 4) 3日目までは看護師に同行し、見学・体験実習をする。
- 5) 4日目からは受け持ち患者を中心に看護師と共に行動し、看護活動を体験する。
- 6) 学生としての立場を考えた行動をとり、見学・体験できることは積極的に行う。
- 7) 患者の理解ができるように患者の立場にたって、患者と接するように心がける。疑問に感じたことは積極的に質問をし、助言を受ける。

- 8) 学生主体で、毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り、学びを深め、広げる。実習終了日は、実習での体験と関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 9) 実習での学びをレポートにまとめる。

基礎看護学実習Ⅱ（2単位 90時間）

1. 実習目標

1) 実習目標

- (1) 看護過程を用いて看護の実践ができる。
- (2) 実習を通して看護学生としての望ましい姿勢・態度を養う。

2) 行動目標

- (1) 看護理論の枠組みに沿って情報収集をする。
- (2) 患者の全体像を関連図を用いて把握する。
- (3) 患者の情報を科学的根拠に基づき分析・解釈し、看護問題の明確化（看護診断）を行う。
- (4) 患者の看護問題に優先順位をつける。
- (5) 患者の看護計画を立案する。
- (6) 看護計画に基づき援助を実施する。
- (7) 期待される成果の達成度を評価する。
- (8) クリティカルに考える態度を身につける。

2. 実習方法

1人の患者を受持ち看護過程を展開する。日常生活援助を行う。

3. 留意点

- 1) 実習初日に病棟オリエンテーションを受ける。
- 2) 「実習計画表」は事前に1日の実習目標・計画を立案する。（担当教員に相談・報告する。）
当日、計画に沿った実習を行い、評価の欄に目標達成状況を記載する。（病棟で助言を受ける。）
- 3) 学生主体で、毎日カンファレンスを行い、学習体験の共有と疑問の解決を図り、学びを深め、広げる。中間カンファレンスで看護問題と看護の方向性について確認する。実習終了日は実習での体験と関連づけて終了カンファレンスを行う。
- 4) 実習期間中に1日を限度（半日×2回）として、学びのまとめの時間をとる。
- 5) 実習での学びをレポートにまとめる。